

2022年度 教育活動等に対する学校評価

【教育方針】

「心を高める」

- 1 自ら考える力を育てる(主体性)
- 2 みんなで一丸となって目標を達成する(協調・共同)
- 3 困難に立ち向かう強い気持ちを育てる(勇気)
- 4 他人を思いやる心を育てる(利他の心)
- 5 チャレンジする心を育てる(高い志)
- 6 子ども達の創意・工夫・アイデアを育てる(創造力)
- 7 心が折れない回復力をつける(回復力)

【本年度の重点目標】

- ①環境整備 子ども達が遊びたくなるような園庭
- ②文教農園
 普段の保育での農園活動の充実 新しい作物を植える 休日の日の農園の使い方
- ③異年齢保育の充実
- ④子どもの健康留意・体力の向上を図る
- ⑤行事に力が入り、行事の為の行事にならないように努めていく

【自己評価とそれに対する学校関係者評価結果】

A 十分に評価があった B 成果があった C 少し成果がなかった D 成果がなかった

【評価項目の達成及び取り組み状況】

評価対象	評価項目	自己評価	
		評価点	幼稚園としての反省と改善点
保育の計画性	子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てをこうじている	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等が多く活動の見直しをしっかりとる必要がある ・発達の面では、1人ひとりにあった手立てが出来るよう理解を深めていきたい ・他の職員と相談したりし、その子に合った手立てを考えていった ・できるだけ身体をたくさん動かせる環境等を作るよう努めた ・職員会議で、困っている子の例を出しみんなで意見を出し合い共有した ・子ども達の発達段階に合わせ、予定していた活動を変更することがあった
	園の教育理念、教育方針に従って目標を設定している	B	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画を立てる際にも教育方針に従って目標を設定することができた ・教育理念・教育方針をしっかり把握することが出来なかった ・子ども達がわくわくするような活動を考えた ・行事が多く心に残るものばかりではないため、時期や内容等整理する ・普段の活動で子ども達がわくわくするような活動を考えて取り組んだ
	幼稚園は子どもの良さを認めて、評価しようとしている	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの長所や好きなことを認め、自信が持てるように努めた ・担任だけでなく他のクラスの子の良い面も見つけ、職員全員に伝えるようにしている
保育のあり方	幼稚園は子どもの健康に留意し、適切な処置を行なっている	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナに対する対応が難しいと感じる 手洗い・うがいが自ら出来るように習慣づけた ・友達とぶつかったり、転んでしまったりした時は、すぐに冷やすなどの対処をした ・子どもが怪我をした時、ヒヤリハット研修として職員全体で話し合い、危険防止にもつながった
	安全についての意識を全職員がもち、安全教育に努める	B	<ul style="list-style-type: none"> ・バス内での置き去りや虐待などの事件が多くあり、安全管理に対してより細かな計画を立て実行した ・鉄棒の下等、マットや芝生を設置したため怪我が減った ・終礼当番の職員が、遊具・室内等の安全を確認したり、ヒヤリハットのについて共通理解できた ・イラストを見て2グループに分かれ意見を出し合い、危険予知訓練をしていった
	保護者との連絡を密にし、発達や課題に前向きに対処している	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に気になっていること等伝えるがその伝え方が難しい ・連絡帳や面談を通して子どもの様子を知らせたり、聞いたりし良い方向にもっていくことが出来た ・連絡帳や面談を通して家庭での様子も把握でき、子どもにとっても保護者にとっても無理のないよう発達課題にも向き合うことが出来た
	幼稚園は、他のクラスや異年齢交流等の様々な保育形態で子どもを共通理解している	B	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のわくわくタイムを自然な形でできるようにしていきたい ・わくわくタイムや遊戯・楽器演奏などの見せ合い等、刺激になることが多い ・日頃の生活で、上の子の様子を見て憧れを持ったり、真似をしたりしている ・わくわくタイムでは他のクラスの子どもの良いところだけでなく、困り感も共通理解できた ・異年齢交流の充実が図れた
	子ども達が今興味関心をもっていることを知る	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の声を聞くように心がけている ・自由遊びの時間など日常的にコミュニケーションをとることでどこに興味があるかを知ることが出来た ・子どもの興味・関心から活動を広げられるように努めた

教師としての 資質と 適性等	教職員は園内の美化に努めている	B	・清掃・整頓を心掛けることで園内の美化に努めることが出来た ・毎日の清掃をするが、細かなところまで行う必要がある ・図書の絵本等、職員と子どもとで整理整頓していく
	幼稚園の研修や研究に積極的である	B	・公開保育を通して、自分の長所短所だけでなく他の職員の良い部分を知り、学ぶことが出来た ・SDGsについてあまり積極的に行うことが出来なかった
保護者への対応	保護者と保育者が家庭でのあり方と保育についての共通理解が出来るよう努める	B	・子どもが家庭に帰り園の様子を話すことが一番の共通理解と思うため感動できる保育を心掛けた ・おうち園を取り入れ子ども達の様子を写真や動画で発信し、保護者に喜んでもらっている ・連絡が密に取り合うことが出来る保護者の方とそうでない方の差が出来てしまった
	幼稚園は情報の発信に努めている	B	・毎日ブログを発信できた 園外にも目を向けていきたい ・ブログやインスタグラム等行い、インスタグラムは外部から見れる機会となったが、もっと深めていきたい ・動画も発信できると良いと思う
地域との連携	地域への開放や子育て支援事業を具体的な形で進んでいる	B	・すすく広場・園見学等積極的にできている ・長期預かり保育があることで、保護者の負担が軽減することが出来ていると感じる
	幼少連携・地域との連携活動の充実を図る	C	・地域のお年寄りの方に子ども達が収穫した大根をおでんにして振る舞い、交流できた ・小学校交流を行いたい

評価対象	評価項目	自己評価	
		評価点	学校評価委員の反省と改善点
保育の計画生	A	全職員が、全園児を把握しており園児の様子を見ながら保育していると感じている 臨機応変であることと計画性があることが良い具合にバランスよく両立している 年間計画に基づき、行事や日々の保育がなされている 食育等園独自性を感じる取り組みが見られた 子ども一人ひとりに対する指導の結果を行事等を通して感じる事が出来た 子ども達一人ひとりが自信をもって自分だけでなく他の子の良さを理解して「心を高める」という教育方針に基づいた園の先生の下、生き生きと活動できている 子ども達の声に耳を傾け保育する様子がある	
保育のあり方	A	グループでの話し合いを取り入れるなどの工夫が子どもの力、成長を伸ばすものだと思う これからも挑戦して欲しいと思う 公開保育では、先生の一生懸命が伝わってきた保育だった 教育は「教えること」先生のこれからは楽しみだ 体調不良者への対応等安心できる 外部侵入者への対策は不安に思う 誰でも入ってきてしまう状態である コロナウイルスや胃腸炎等のクラスターが度々発生していたのが気になった 異年齢交流により、子どもの付き合いが広がっていくことが感じられた 子どもに対する気づきを園関係者からもらうことが多く、子どもをよく見てくれていると感じられ安心感がある 公開保育では、身近な出来事から子ども達の事について考えさせる場面があった	
教師としての資質能力、適性等	B	公開保育をしたり、外部の研修に出向く等資質向上を目指す姿が見られた 先生たちが、様々な勉強を熱心に行っている 教室内は、整理整頓されていた 棚やピアノの上の埃が気になった プログラミング教育等新しい取り組みがあった	
保護者への対応	A	連絡アプリを通して多くの情報発信があった 子どもの発達の為、家庭での関わり方に対する指導が適切であった ホームページの改修などに力を入れていた 保護者は、我が子の姿を通して園を評価します 一人ひとりの園児を大切にすることが、信頼関係を築くことの基本になることは言うまでもありません	
地域との連携	B	コロナ禍ということもあり、地域の関わりがあまり見られなかった 園庭開放等は、定期的に行っており地域の子育てへの支援姿勢を感じる事が出来た	
困っている子がいると優しく声をかけている子ども達が多いのは、日頃から園の先生たちが温かい関わりをしているからだと思う さまざまな場面で工夫している様子が見られる			
総合評価	B	改善点・伸ばしていきたいことは、下記の通り	

<重点目標を含む改善点・伸ばしていきたいこと>

【環境整備】

- ・子ども達が遊びたくなる園庭づくりを設定し、子ども達が自ら遊びを見つけ、遊びに参加できるようにする

【保育の充実のための対策】

- ・今後とも毎日の職員会議で意見を出し合って改善していく
- ・行事の為の保育にならないように努めることは理解していたが、あまり変わることなく過ぎてしまったように思う 来年度の目標をしっかりと決め職員同士が共通した考えを持てるようにしていきたい
- ・行事のあり方について➡ 作品展は、本当に必要なのか コロナが流行して昨年youtubeで作品の様子を公開した 毎月末にyoutubeでなくても作品を写真や動画で公開することで、行事にしなくて良いと感じる 作った作品は、毎月持ち帰るようにすれば収納場所にも困らないのではないか
- ・イベントが多かったり、日程が近いと心のゆとりが持たなくなってしまうため、計画の時点で配慮できるようにしたい
- ・一人1回公開保育を行い、専門の先生からアドバイスを頂いたり職員同士で話し合いを持つことでより充実した保育が持てるようになった

【意欲をもって考える力を育む保育の充実】

- ・わくわくタイム以外で交流が持てるようにしたい 他の学年と歩いて公園に行くこと等もっと行っていきたい
- ・午後の時間をもっと有効活用していきたい 給食を食べ終わった子から外に出るなど子ども自身が目標をもって動けるようにしたい
- ・PTAから寄附を頂き、ラズベリーパイ・モニター大型テレビ等を購入し、パソコン教室を開いた マウスのダブルクリックやキーボードの数字入力等パソコンに触れ、プログラミングまで楽しむことが出来た 来年度も引き続き行っていく予定である
- ・子どもの良さだけでなく短所を長所にできるような日々の関わりや会話を大切にしていきたい
- ・SDGsについての先生同士での共通認識・理解を更に深めていきたい
- ・挨拶のできる子に育てていきたい
- ・フツ素は、必要なのか

【異年齢保育の充実】

- ・わくわくタイムでお店屋さんごっここの活動を楽しんだ 目標を設定して仮想通貨を使ってお金の勉強もすることが出来た 看板や衣装などの作成等、子ども達と十分話し合いを持ち進めていきたい
- ・引き続きお金の勉強もしていきたい
- ・異年齢で行くと年少児の負担が多かった 学年でじっくりやっていくことも大切だと思う

【感動できる文教農園での充実】

- ・文教農園に行く日をパン給食にすることで、一日農園で過ごせるのではないかと
- ・農園では、広い場所を活用した遊びをもっと考えていきたい

【小学校との連携・地域の連携】

- ・農園では、作物の収穫を楽しんだりしたが、各クラスで食育に発展できるようにしていきたい
- ・農協のイベントに青組さんが参加し、野菜売りをした また、その経験を生かして保護者にも野菜売りをして喜んで頂いた
- ・年長児だけでなく他のクラスの子も野菜売りに参加出来るようになった
- ・今年度は、おでんを作って地域のお年寄りの方に渡し、喜んでいただけた コロナ禍の為交流がなかった為、来年度は、一緒に遊ぶ機会を設けたり、地域の方にも野菜販売やおでんパーティーなどにも参加していただくようにしていきたい
- ・蜂については、自然災害でダメになってしまったが、来年度も引き続き行っていきたいと思う 保護者の方にも畑の活動に参加して頂き子ども達と一緒に楽しんで頂きたい